

人間ドック検査項目表(1日コース)

河北病院

検査項目		検査内容等	
	内科診察	問診、聴打視診により全身の状態を診察する	
	身体諸計測	肥満、やせ、体脂肪の程度、腹囲を調べる	
呼吸器系	胸部X線検査	肺疾患の有無や心臓、大動脈の形や大きさをみる	
循環器系	心電図	安静時	不整脈や狭心症、心筋梗塞、刺激伝導（心臓の刺激の伝わり方の異常）などの有無や危険性をみる
		血圧測定	
消化管	食道・胃・十二指腸（内視鏡）		内視鏡によって、食道、胃、十二指腸を検診し、胃がんやポリープなどを発見する
	大腸	便潜血反応	消化管、特に大腸からの出血があるかどうかを調べる
消化器系	腹部超音波		主に胆嚢疾患や胆石の有無、肝臓の形の異常や腫瘍の有無をみる
	肝機能系	AST (GOT)	AST, ALT (トランスアミナーゼ) は、肝細胞内に含まれる酵素の一種でこの上昇は肝細胞の破壊等を示す (ASTは筋肉細胞内にも含まれる)
		ALT (GPT)	
		ALP	胆道系由来の酵素で胆汁の流れが悪い時などに高値を示す
		LDH	乳酸脱水素酵素で骨格筋や肝臓、心臓などに分布し、筋肉疾患や肝臓障害、心筋梗塞などで高くなる
		γ-GTP	胆汁の流れの悪い時やアルコール性肝障害、脂肪肝などで上昇する
		総ビリルビン	ビリルビンは胆汁の色素で、肝障害や胆道閉塞、体質性黄疸、溶血（赤血球の破壊）などで高値を示す
		総蛋白	血清に含まれる蛋白質の総量で、肝臓の蛋白合成機能の低下・栄養状態の低下で低値を示す
	アルブミン	血清蛋白中の約70%を占める蛋白質で、栄養状態の低下・肝臓の蛋白合成機能の低下で低値を示す	
	肝炎	HBs抗原	B型肝炎ウィルス感染の有無をみる
HCV抗体		C型肝炎ウィルス感染の有無をみる	
膵臓	血清アミラーゼ	アミラーゼは、膵臓から分泌される消化酵素で、膵臓疾患などで高くなる（唾液腺、小腸からも分泌される）	
代謝系	血清脂質	総コレステロール	動脈硬化の発生と密接な関係があり、肥満や動物性脂肪の過剰摂取や運動不足で上昇する
		HDLコレステロール	動脈硬化を予防する善玉コレステロールといわれ、低い値を示すと狭心症や心筋梗塞のような虚血性心疾患の発生が多くなる
		LDLコレステロール	悪玉コレステロールといわれ、これが多すぎると動脈硬化を進行させ、心筋梗塞や脳梗塞のリスクを高めます
		Non-HDLコレステロール	総コレステロールからHDLコレステロール（善玉）を引いた値で全ての動脈硬化を引き起こすコレステロールを表す
		中性脂肪	肝臓で合成される脂質で、肥満、運動不足、アルコール過剰摂取、糖尿病などで高値を示す
	耐糖能	空腹時血糖	糖尿病や糖尿病の可能性の有無を調べる
	HbA1c	赤血球のヘモグロビンとブドウ糖が結合したもので、過去1～2ヶ月間の平均的な血糖値を反映する	
血液系	赤血球数	貧血あるいは多血症を推測できる また、貧血の種類が鑑別ができる	
	血色素量（ヘモグロビン）		
	ハマトクリット		
	平均赤血球容積（MCV）		
	平均赤血球血色素量（MCH）		
	平均赤血球血色素濃度（MCHC）		
	白血球数	血液疾患などで増減し、各種炎症等でも増加する	
	血小板数	血管損傷時の止血と関係する	
腎機能系	尿蛋白・糖・潜血	尿の中に含まれているブドウ糖や蛋白質等の成分を検査し、主に糖尿病や腎臓病の診断の目安にする	
	尿沈渣	尿を遠心沈殿して、赤血球、白血球、細菌などの数を調べ、腎臓や尿路疾患診断の目安にする	
	血清尿素窒素	蛋白質の新陳代謝によりできた老廃物で、腎臓から排泄され、腎臓の動力が低下した時、高値を示す	
	血清クレアチン		
	慢性腎臓病（eGFR）	血清クレアチニン値から推測し、腎機能の低下を調べる	
	血清尿酸	体内プリン代謝の最終産物で腎臓から排泄される 血清尿酸が血液中に異常に増えると痛風の原因や尿路結石の原因となる	
	塩分摂取量	尿中ナトリウム排泄量から食塩摂取量を推測する	

検査項目		検査内容等
電解質	ナトリウム	高血圧や腎機能障害などを調べる
	カリウム	
	クロール	
泌尿器科	PSA（男性のみ）	血液から前立腺疾患の有無をみる
眼科	視力検査、眼底検査	
耳鼻科	聴力検査	聴力検査を行う

オプション検査	骨塩定量検査	骨粗しょう症の有無を調べる（腰椎＋股関節）
	マンモグラフィ（女性のみ）	乳房X線撮影 乳がんの早期発見
	喀痰細胞診	肺がん細胞の有無をみる
	胸腹部CT検査	胸部レントゲンでは見つけにくい、微小肺がんの早期発見
	ヘリコバクター・ピロリ抗体検査	胃がんや消化性潰瘍と関連性のあるピロリ菌感染の有無を調べる なおピロリ除菌後の判定には適さない（血液による抗体検査）
	動脈硬化検査	脈波で動脈硬化を調べる
	脳梗塞リスクマーカー検査	脳梗塞で細胞が傷つくと血液中に増えてくる「アクリン」と炎症マーカーの2種類を検査し、総合的に判断して「隠れ脳梗塞」や「無症候性脳梗塞」の可能性を調べます。
	婦人科診察（女性のみ）	婦人科疾患の有無を調べる（細胞診：子宮頸部 ・経膈エコーを含む）

※ 上記検査項目以外で、医師の判断により医療行為が必要となった場合は、保険を適用し、別途自己負担分をお支払いいただきます。